

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02827

研究課題名(和文) 戦国時代における「大敗」の心性史的研究

研究課題名(英文) A mental history study of "great defeat" in the Warring States Period

研究代表者

黒嶋 敏 (Kuroshima, Satoru)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：90323659

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦国時代でも非常にまれな合戦での「大敗」に着目して、敗者側の大名領国に与えた政治的・社会的影響および精神面への影響を考察し、そこから戦国大名権力の特質に迫ろうとするものである。3年間の研究期間を通じて、7つの「大敗」事例に関する史料の収集・調査、ならびに関連する史跡の現地調査を行った。

また、期間最終年次となる2017年の12月には、「戦国合戦<大敗>の歴史学」と題する公開研究会を東京大学において開催し、研究代表者を含む7名が成果を報告した。

研究成果の概要(英文)： In this research, focusing on the battle that caused a very unusual "great defeat" even in the age of warring States, I will consider the political and social influence that it gave to the loser side and the influence on the mental side and from there it is about to approach the character of Warring States Daimyo power.

In three years, we gathered and investigated historical materials on seven "great defeat" cases and field investigations of related historical sites. In December 2017, a public study group was held at the University of Tokyo and the results were reported.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 戦国時代 大敗 戦国大名 合戦 心性史 戦死者 供養

1. 研究開始当初の背景

戦国時代の時代的な特徴である合戦については、これまでも関心が集まり、通史や概説書などでも取り上げられる機会の多いテーマである。ただ合戦の性質上、それらの歴史叙述は勝者側の史料によって、つまりは勝者側の目線によって記されるのが一般的であった。そうしたなかで近年は、吉川弘文館から「敗者の日本史」シリーズが刊行されるなど、徐々にではあるが敗者側に着目して当該の合戦を再検証しようとする動きが見られるようになった。ただそこでは、軍事史的な観点が優越したためか、合戦に至る経緯や合戦の具体的な経過が丁寧に描かれているものの、合戦で「大敗」を喫した後の大名領国や社会の叙述は簡略なものにとどまっております、なお課題を残している。

しかし、「大敗」後の大名や大名領国が受けた影響は多岐に渡ることが想像される。ありきたりの「〇〇の戦いで大敗した××氏は衰退の一途をたどった」という通説的なイメージを乗り越えて、あらためて実証的に追及していく必要があるだろう。既存の権威と軍事的な示威(武威)により、家中支配を維持し従属者を増やしていった戦国大名にとって、「大敗」はどのような意義を持ち、そしてどのような影響を与えたのか。

これまで十分に注意されてこなかったが、その検証によっては、大名や領国支配の様相の新たな側面が浮かび上がってくるだろう。「大敗」は戦国時代を考えるうえで、大きな有効性を持つ切り口の一つとなるのではないだろうか。

2. 研究の目的

本研究は、戦国時代でも非常にまれな合戦での「大敗」に着目して、「大敗」が敗者側の大名領国に与えた政治的・社会的影響および精神面への影響を考察し、さらには、そこから戦国大名権力の特質に迫ろうとするものである。予期せぬ「大敗」に遭遇した後に、大名の支配や領国社会がどのように変質したのか。衰亡や弱体化といった通説的なイメージを乗り越えていくためには、確実な史料に基づく実証的な研究を積み重ねていく努力が不可欠である。また、多岐に渡る様々な影響を考察するためには、同時代における戦死者の供養・鎮魂・顕彰といった現象も「大敗」との因果関係のなかで整理する必要がある。いわば「大敗」とは、敗者側の人々の心性の問題をも含みこんだうえで追究されるべきテーマである。

また、こうした「大敗」後を考え理解を深めていくためには、単独の事例のみではなく、複数の「大敗」事例との比較検証を行うことが望ましい。これまでにはないユニークな試みではあるが、いくつもの「大敗」事例を比較していくことから、敗者側に与えた影響の類型化・相対化が進み、対象となる各大名領国の支配の特徴をより鮮明に浮かび上がら

せることが可能となるものと思われる。比較検証によって共通点と相違点が明らかになれば、さらにはそこから、合戦の持つ意味や領国支配の差異などといった側面について、戦国時代における地域性の問題にも光を当てることができるだろう。

3. 研究の方法

これらの「大敗」が及ぼした多種多様な影響を、歴史学の観点から実証的に考察するにあたり、まず必須の作業となるのは史料収集である。古文書・古記録をはじめとする戦国時代の文献史料については、相当数が活字化されており、すでに一程度の蓄積を持つものではある。ただ本研究課題に即しては、同時代の文献史料のみを研究材料とするのでは十分とはいえない。記憶や言説といった同時代人の思考様式(心性)にまで迫っていくためには、さまざまな諸史料に目を配らなければならないのである。

そこで本研究での史料収集は、同時代の文献史料に加え、墓碑銘や顕彰碑などの金石文、棟札・縁起、あるいは成立時期が下る系図・軍記類をも研究対象として含めた。史料収集に際しては、当該地域において編纂・刊行された自治体史・文化財調査報告書などをもとに関連する情報を網羅的に集め、必要な史料については採訪をしてデジタルカメラで撮影し、データとして集積を図っていった。なお、「大敗」事例のなかでは史料の数量的に多寡があることが推測でき、なかでも勝者側・敗者側の末裔の多くが江戸時代の武家社会に存続した長篠の戦いに関するものは、とくに残存数が膨大になることが見込まれた。このため本科研でも、長篠の戦いの関連史料の収集を重点的に行った。

つぎに、「大敗」の与えた影響について比較検討を行うために、複数の「大敗」事例を横断的に取り上げることにした。本研究では、敗者側の大名領国が戦後継続していることなどの条件の類似性に基づき、以下の7事例をピックアップし、各事例の担当者として、研究代表者を含めた7名を割り当て、調査研究を行った。なお、3年間の研究期間中に、連携研究者・研究協力者に一部変更が生じたため、当初予定していた研究体制を見直したうえで、期間最終年次となる2017年度には以下の体制をとった(それぞれの「大敗」事例と担当者を示す)。

人取橋の戦い(1585年、伊達氏)(担当...研究代表者黒嶋敏)

川中島の戦い(1561年ほか、上杉氏)(担当...研究協力者福原圭一)

桶狭間の戦い(1560年、今川氏)(担当...連携研究者播磨良紀)

長篠の戦い(1575年、武田氏)(担当...連携研究者金子拓)

三方が原の戦い(1572年、徳川氏)(担当...連携研究者谷口央)

出雲攻め(1542年、大内氏)(担当...研究

協力者山田貴司)

木崎原の戦い(1572年、伊東氏)(担当...
連携研究者畑山周平)

それぞれの事例担当者は、同時代史料に加えて、既存の史料集や先行研究において十分に関連付けられていなかった史料類にも目配りをし、集積する作業を行うことで、上記の課題に即し「大敗」が大名領国に与えた影響を考察するものとした。

以上の作業と並行して、各合戦の故地に出向いての現地調査を行った。ただし、本科研への交付額が研究計画調査段階よりも削減されたことから、地域別にまとめるなどの調整をしたうえで旅費の圧縮を図り、現地調査は各年次に1回のペースで実施するものとした。現地では、城郭・寺社・道路遺構など合戦故地における軍勢の動きを復元的に辿りうる関連史料の調査に軸足を置くとともに、本研究の研究目的の一つでもある戦後の供養・鎮魂・顕彰のあり方を検証する手がかりとして、合戦以降に建立されていった供養塔・鎮魂碑なども調査対象に含めた。各年次の調査先は以下の通りである。

・2015年11月...宮崎県えびの市・小林市ほか(木崎原の戦い)

・2016年11月...静岡県浜松市・愛知県新城市・名古屋市ほか(桶狭間の戦い・三方が原の戦い・長篠の戦い)

・2017年9月...福島県二本松市・福島市ほか(人取橋の戦い)

各調査に際しては、それぞれ現地の状況に精通しておられる研究者の方にご同行をお願いし、案内をしていただいたことで、順調に、そして効率的に作業を進めることができた。また、現地調査に合わせて、各担当者による担当事例の進行状況を報告する研究会を開催し、情報の共有化を図りつつ、「大敗」相互の比較検証にむけた意見交換を重ねて行った。

4. 研究成果

まず史料収集として、3年の研究期間内に、東北大学附属図書館をはじめとする各史料所蔵機関に赴き、関連史料の調査・撮影を行った。デジタルカメラにより撮影された画像データについては、所蔵者の許諾・意向確認が済んだものから、東京大学史料編纂所のデータベースに搭載され、同所HPからの公開を進めていく予定である。また、とくに重点を置いた長篠の戦いの関連史料については、収集量が膨大なものとなったため、学術支援専門職員1名を雇用してデータの整理・入力作業を遂行した。本科研で収集・整理された史料のうち、長篠の戦いの関連史料については、その多くを『大日本史料第十編之三』に採録するべく、編纂作業を進めているところである。同書は、2019年度に刊行を予定しており、刊行によって本科研の研究成果の公開となるとともに、長篠の戦い関連史料の基礎的な部分を固めうる史料集となることが

見込まれる。

つぎに、調査・研究の成果は、各事例の担当者が個別に論文や研究報告などの形で発表を進めた。さらに、研究メンバー共同での成果公開の場として、2017年12月2日に東京大学において公開研究会「戦国合戦〈大敗〉の歴史学」を開催した。この公開研究会では、本科研として進めてきた7つの「大敗」事例に関する研究成果を、7名の担当者それぞれが研究報告として発表した。当日の報告者と報告題目は以下の通りである。

・黒嶋敏「趣旨説明 〈大敗〉への招待」
・山田貴司「大内義隆の「雲州敗軍」とその影響」

・播磨良紀「今川義元の西上と〈大敗〉 - 桶狭間の戦い - 」

・福原圭一「「大敗」からみる川中島の戦い」

・谷口央「三方ヶ原での 大敗 と徳川家臣団」

・金子拓「長篠おくれの精神史」

・畑山周平「南九州戦国史のなかの木崎原の戦い」

・黒嶋敏「伊達家の不祥事と〈大敗〉 人取橋の戦い 」

当日の参加者には、研究者のほか、学部学生や一般の歴史愛好家を含め、延べ103名の参加を得た。報告では、それぞれの「大敗」事例についての実証的考察の成果が明らかにされるとともに、各報告間で共通した指摘として、「大敗」後に影響が出やすいのは内政面よりも軍事・外交面であること、後世における鎮魂や顕彰によって「大敗」には重厚なベールがかけられていくため、同時代の状況を見極めるのが困難であることなどの諸点が出された。これらに基づいて全報告の終了後に質疑・討論の場を設け、「大敗」後の理解をめぐって、報告者・参加者を交えて活発な討論が展開された。

なお、この公開研究会における各報告の内容については論文化を進め、同題の論文集として刊行することで研究成果の社会還元を果たすものとするべく、現在、準備を進めているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

金子拓「長篠の戦い後の織田信長と本願寺」『白山史学』53号、査読無、2017年、1-18頁

黒嶋敏「二つの将軍家 と奥羽の連歌師」『東北中世史研究会会報』24号、査読無、2017年、1-13頁

黒嶋敏「明・琉球と戦国大名 倭寇禁圧の体制化をめぐる」『中国 社会と文化』31号、査読無、2016年、20-33頁

[学会発表](計1件)

黒嶋敏「戦国時代の羽州探題最上氏」山形史学研究会(招待講演) 2016年

〔図書〕(計4件)

黒嶋 敏 『秀吉の武威、信長の武威 天下人はいかに服属を迫るのか』平凡社、2018年、318頁

播磨 良紀・谷口 央ほか 『愛知県史 通史編3 中世2・織豊』愛知県、2018年、総788頁、

金子 拓 『戦国おもてなし時代 信長・秀吉の接待術』淡交社、2017年、192頁

金子 拓 『織田信長 不器用すぎた天下人』河出書房新社、2017年、199頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

黒嶋 敏 (KUROSHIMA, Satoru)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：90323659

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

谷口 央 (TANIGUCHI, Hisashi)

首都大学東京・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90526435

金子 拓 (KANEKO, Hiraku)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10302655

播磨 良紀 (HARIMA, Yoshinori)

中京大学・文学部・教授

研究者番号：60208692

鴨川 達夫 (KAMOGAWA, Tatsuo)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60214566

(平成28年度まで連携研究者)

畑山 周平 (HATAYAMA, Syuhei)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：30710503

(平成29年度より連携研究者)

(4)研究協力者

山田 貴司 (YAMADA, Takashi)

熊本県立美術館・学芸員

福原 圭一 (FUKUHARA, Keiichi)

上越市公文書センター・係長
(平成29年度より研究協力者)